

令和元年度 授業改善推進プラン 調布市立第八中学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- ①国、都、市の学力調査の結果や生徒による授業評価の結果を参考に、学力に関する課題を把握し、「授業改善推進プラン」、「調布ベーシックプラン」の作成・実施・評価・改善を通して、確かな学力の向上を図る。
- ②数学・英語の少人数・習熟度別指導では、生徒一人一人の能力伸長を図るとともに、定期考査前自習教室では、学習ボランティア等を活用し、基礎的・基本的な内容を定着させる。
- ③地域学校協働本部事業を活用し、大学生やシニアのボランティアを活用した学習支援、英語検定や漢字検定、定期考査前自習教室、土曜学習部の活動などを実施し、基礎学力を定着させ、学力の向上を図る。
- ④学校図書館や近隣の教育機関、ICT機器、地域の人材活用、体験的な学習を取り入れるなど、多様な学習形態を用いる。

【都「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容】

調査結果から、「A教科の内容」の正答率では、都の平均との差が、国語(-0.6)、社会(-1.8)、数学(-1.8)、理科(+0.6)、英語(+6.2)となった。平成30年度の結果は、国語(-3.8)、社会(-0.7)、数学(-4.1)、理科(-3.4)、英語(-2.4)であったことから、4教科において改善が見込まれる結果となった。

国語、社会、数学の3教科では、それぞれ都平均を下回り、標準よりやや低い学力を示している。特に、「思考・判断・表現」の観点で都の平均を下回っている部分を向上させたい。その反面、理科、英語の2教科においては、都の平均を上回り、「思考・判断・表現」の観点においても上回っている。特に英語での同観点は、(+15.9)となっており、英語科における授業改善の工夫を、校内研修等で共有したい。

また、「知識・理解」の観点でも、数学(-3.4)、社会(-3.1)、国語(-0.1)とそれぞれ都平均を下回っている。さらにこの3教科は、「技能」の観点でも都の平均を下回っている。これらの課題から、基礎・基本をしっかりと定着させ、それを活用した技能や思考力の習得を促す授業改善が必要である。

【授業改善の方針・目標】

【授業改善の方針】授業評価を生かした適切な指導・評価計画のもとで「授業改善推進プラン」「調布市ベーシックプラン」を作成・実施・評価・改善するとともに、少人数習熟度別授業を効果的に実施したり、小規模校の特性を生かしたりすることによって、個に応じた指導を充実させる。また、国、都、市の学力調査の結果を参考に、生徒の学力に関する課題を把握し、「授業改善推進プラン」「調布ベーシックプラン」を作成し、その検証を通して「確かな学力」の向上を図る。

【授業改善の目標】生徒が生き生きと参加する「分かる授業」を推進し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、「確かな学力」の向上を図る。

【授業改善のための具体的な取組】

- 【国語】基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、言語の活用力を鍛える取り組みを行う。授業内でも「書く」課題を増やし、簡潔で分かりやすい文章表現力を高める。また、意見発表会や授業のまとめを発表する活動を通して、「相手にわかりやすく話すための工夫」を考えること、「要点を押さえて聞き取るための手段」を実践させ、読解力の伸長につなげる。基礎力の拡充と学習習慣の定着を図るために、定期的に「漢字テスト」を実施する。
- 【社会】授業の中で写真や映像などの視聴覚教材を取り入れ、単元に対する興味や関心を引き出す。グループワークやペアワークを適宜実施し、対話的活動の充実を行う。自分自身の意見を表現することや他者の考えを取り入れることで、生徒の社会的な見方・考え方を育成する。また授業ごとに復習を行い、基礎的な知識の理解と定着を図っていく。
- 【数学】学習意欲の個人差に応じた指導を充実させるため、少人数習熟度別授業を効果的に展開する。αコースでは、一問一問を確実に取り組ませることを重視し、既習事項の復習を取り入れながら基礎・基本の定着を図る。βコースでは、授業内にできるだけたくさん問題を解く機会をもつように心掛けるとともに、応用問題に意欲的に取り組む態度を育成する。
- 【理科】ワークシートやレポートなどで考察やまとめを言語化するとともに、口頭や文章等で発表する機会を多く設け、主体的・対話的で深い学びを目標に進める。また、学習内容が実生活で生かされていることと関連させながら考えさせ、理解を図っていく。
- 【音楽】学習意欲を高めるために、導入の工夫、ほめる言葉かけや安心して表現できるクラスの雰囲気作りを大切にしていく。歌唱指導においては1年次での基礎基本の習得を確実にすることで表現力の育成につなげる。合唱においては、生徒が主体的に表現する授業を行い、表現力の育成を図る。ワークシートの工夫、言葉のヒントにより言語活動を充実させ、音楽表現の工夫につなげる。鑑賞では発言の共有化を図り、能動的な鑑賞の授業としていく。
- 【美術】学習意欲の向上に向けて、授業中の言葉かけと共に、授業記録へのコメントや作品にアドバイスを記した付箋を付けておくなど、個に応じた指導を行っていく。また、授業内容についても、身近な作品を扱った導入など、より高い興味・関心をもてるような工夫を行う。毎回の授業における目標を明確に提示し、スモールステップで、基礎的・基本的技能を確実に身につけさせる指導を行っていく。
- 【保健(男子)】個人差に対応した指導を充実させる。学習カードやまとめのプリントを活用し、基本的な知識や技能の定着を図る。ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫し、互いに学び合う活動を取り入れる。
- 【保健(女子)】種目の技能・ルールに対しての理解を高め、実践に生かすように指導していく。そのために個別指導だけでなく、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いに教え合うことでより深い理解に繋げていくようにする。また運動が楽しいと感じられるように協力・助け合いを促す指導も行っていく。
- 【技術】評価カードを活用し、個人内評価を進める。グループワークやレポート作成を取り入れ、生徒相互に主体性を高めさせ、技能修得を図る。個人内評価や個別指導を充実させる。
- 【家庭】評価カードを活用し、個人内評価を進める。学習意欲や能力に応じた指導をすることを課題とし、各分野ごとの導入では、生徒に見通しをもたせた授業展開を図る。また、実習においては、実生活の場面で生かせる技能を身につけさせるとともに、進度に応じた指導を充実させる。
- 【英語】粘り強く課題に取り組む態度や学習意欲の個人差を補うため、定期的にスプリングコンテストを実施する。少人数授業の利点を生かし、個々の習熟度に応じた単語習得量の目標を設定し、その目標を達成できるよう指導する。授業では、アクティブラーニングの視点に沿った授業を展開する。

【取組の進行・管理, 評価方法, 時期】

授業改善推進プランの計画・実施・評価・改善に当たっては、都・市の学力調査の結果を参考に生徒の学力の課題を把握するとともに、生徒・保護者からのアンケート結果を生かした適切な評価のもとで作成する。具体的な取組として、学習指導の現状と課題を9月に作成した。さらに、授業アンケート(生徒を対象に7月に実施)・学校評価アンケート(生徒・保護者を対象に7月に実施)、及び児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を参考に、生徒の実態に応じて補充・発展的な学習指導の計画と改善を図る。

3月の検証においては、授業アンケート(生徒を対象に12月に実施)・学校評価アンケート(生徒・保護者を対象に12月に実施)を総括し、次年度に向けた成果と課題を明確にする。また、教育課程の円滑な実施に当たっては、各教科年間指導計画に基づき、週案の点検や授業観察を行う。特に、適切な評価・評定の実施に向け、明確な評価規準・判定基準、観点別評価の進め方や総括に関する資料を作成し、指導と評価の一体化を図る。